

会議名称：令和3年度7月期古賀市社会教育委員の会議

日時：令和3年7月27日（火） 18時30分～20時00分

場所：リーパスプラザこが 103会議室

主な議題：（1）第7回古賀市生涯学習笑顔のつどいの実施方法について

傍聴者数：なし

出席者：井浦議長、角森副議長、國友委員、村山委員、秋山委員、橋爪委員、光永委員、
早川委員

（以上委員7名）

横田教育部長、樋口生涯学習課長、小嶋、渡邊

欠席者：丸井委員

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ

会議内容：以下のとおり

井浦議長：

皆さんこんばんは。定刻になりましたので7月期の社会教育委員の会議を開会します。オリンピックが始まり歓喜に包まれる一方で、感染者は増え続けている状況です。福岡では飲食店の時短営業が8月1日からスタートするという話も出ています。

今日の議題となるのは、生涯学習笑顔のつどいの日程や内容についてです。どのような内容で開催するのか、委員の皆さんからの意見をいただきながらある程度の形を本日の会議で作っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

では、早速協議に入っていきたいと思います。これまでの生涯学習笑顔のつどいの経緯と今年度の開催についてのアンケートを事前に委員の皆様へ配布し、いただいた回答を事務局でまとめていただいていますので、それについてまずは説明をお願いします。

事務局：

はい。

（事務局より内容説明）

井浦議長：

ありがとうございます。本日は、日程・テーマ・ターゲット・実施方法について皆さんのご意見をお聴きしながら、決めていきたいと思っています。

まずは、日程からお願いします。

國友委員：

よろしいでしょうか。このアンケートを記入したときは、ここまで大きな感染の波が来るとは想像していなかったもので、当初の予定通り11月14日に実施するという回答をしていました。

しかし、今回福岡県独自のコロナ警報により8月は飲食店の時短という流れの中、11月に実施する為には9月に広報原稿を提出しなければならないという事を考えると、どうな

のかと。その次の波も来るかもしれませんが、少しでも状況が落ち着き、ワクチン接種も今より進んだ頃と考えると1月の開催が良いのかなと思います。

井浦議長：

ありがとうございます。状況の波を見て、というご意見でしたが皆さんいかがでしょうか。なかなか先のことが読めない状況とは思いますが。

秋山委員：

事務局に確認ですが、11月に行われる他のイベントの実施状況はどうなっているのでしょうか？

事務局：

翌週の11月23日に開催される予定だったまつり古賀は、中止と聞いております。

井浦議長：

ワクチン接種がどうなるかという事もあるのですが、波は定期的に来ていますよね。

國友委員：

土壇場で中止にしないといけないという事になるよりは、安全を考慮し少しでも遅らせた日程を設定する。それでも駄目ならしょうがないのかなとは思いますが。やる前提で日程を設定した方が良いと思います。

井浦議長：

他の委員の皆さんはいかがでしょうか？忌憚のないご意見をお願いします。我々は企画する側ですので、やるからにはある程度の形で実施したいと思っていますが。早川委員いかがでしょうか？

早川委員：

はい。学校の立場からですが、学校はご家庭とお子様と特定できているという事が前提で集まれていると考えています。このようなイベントのように、不特定多数の方が集まるといふ事になると、怖さを感じるということはございます。ですので、本校の吹奏楽部の参加についても、慎重にならざるを得ない事も有ろうかと思えます。

実際の所、中文連等への参加については2週間前からの追跡調査をしている、特定ができている状態でコンクールが行われている。今の状況を考えると、1月に延ばしてもらえればと思っています。一番はワクチンの接種率がどこまで伸びるかで、状況はだいぶ変わってくるのではないかとはい思いますが。

井浦議長：

不特定多数の参加になるという事で、気にされているというご意見でした。村山委員はい

かがでしょうか？

村山委員：

はい。私は先ほどお話された内容と重なりますが、古賀市のワクチン接種が完了するのはいつだろうかと考えていました。完了してから実施するとした方が良いと思います。

大体いつごろ完了するか分かりますか？

事務局：

11月ぐらいかとは思っています。

村山委員：

という事は、1月開催であればクリアしているという事ですね。

事務局：

3回目の接種なども言われていますので、はっきりとはわかりませんが、2回の接種であれば11月頃に完了するのではないかと思います。

國友委員：

65歳以上の感染が減っているようですので、ある程度ワクチンの効果はあるのではと思っています。

井浦議長：

オープニングの吹奏楽の演奏を含めリセットして考えた場合には、ある程度ワクチン接種を終えた方が参加対象者であると考え、1月にずらした方が参加者は来やすくなるのかなど。

そこへ、子どもたちを呼んでくると未接種の子が多いという問題が出て来るかと思いますが、そこはプログラムのところで再度検討できるのかと思います。

時期としては、今までのご意見から1月に延ばした方が良いという方向で進めてもよろしいでしょうか？

11月になった背景として、福岡教育月間にあわせて開催するという前提でしたが、コロナ禍でイベントを実施するということを優先させるためには、月間を外し1月まで再延期させていただき、次年度以降日程については検討をしていくというところで、1月に実施という事でよろしいでしょうか？

委員一同：

はい。

井浦議長：

では、日程につきましては施設の利用状況から1月23日（日）という事になります。

そうすると、広報の締め切りは11月になりますので準備期間としては少し余裕が持てるという事になります。とはいっても、確実に準備は進めて行かなくてはなりませんので、次にテーマをどうするか検討をいただきたいと思います。

アンケートからは当初テーマから変更した方が良いという意見が2名、当初のままで良いという意見が7名でした。

変更案として出ている物は、メインのテーマは変わっていないのですがサブテーマはこの時期に合わせたものがないのではないかとという事で、2名とも「コロナ禍での」という内容で出していただいています。当初のままで行くのか、コロナ禍でのというもので行くのかについてご意見を頂ければと思います。

國友委員：

私はおそらく変更なしで回答したように思うのですが、時期もずらし内容も見直すという事になると、その理由としてコロナの影響があったんだという事が後々記録として残るので、コロナ禍のサブテーマに変更した方がよろしいかと思います。

井浦議長：

ありがとうございます。橋爪委員どうでしょうか？

橋爪委員：

そうですね。実際にコロナ禍での活動の工夫ということで発表してくださる団体は、どのくらいいらっしゃるのか。コロナ禍での活動どうしたらできるというサブテーマはいいとは思いますが、そうなった時に発表団体の方はどのように対応してくださるのかなど。そのサブテーマで発表をされるイメージが沸きにくいかな、という感じはあります。

國友委員：

今候補に挙がっている団体さんが発表されるとすれば、これまでの歩みだと思う。それを考えると、橋爪委員が言われるようにサブテーマだけコロナ禍と掲げても、発表内容が伴わない可能性はあると思います。

井浦議長：

発表は31年度に決めていた団体に特化せず、ゼロベースで考えていただいて良いと思います。

橋爪委員：

テーマに沿った活動をされている団体の方が来ていただけるのであれば、良いと思います。

井浦議長：

おそらく、どの団体も動きがストップしているだろうと思います。私もアンケートの中で

サブテーマの変更案を出したのですが、なぜかと言うと、どこも活動が出来ていないのでどうしたらできるか？という事を考える機会にしてもらってもいいのかなと思って案を出しました。通学合宿を4~5泊やっていた団体が去年出来ていない。今年もおそらく動かないのではないのでしょうか。どなたかご存知ですか？

國友委員：

中止です。

井浦議長：

やはり、そうですね。今まで積み上げられてこられた活動がコロナ禍でストップしてしまっただけじゃあ、どうやったらできるのだろうか？という様な話し合いができればいいのかなと考えています。消毒などは気を付けてどの団体もされていると思いますが、それ以外に何か工夫したらできるのではないかと、という話をフロアのみんなで意見を出し合えるような分科会が良いのかなと私は思いました。

村山委員：

コロナ禍での活動がどうしたらできるかを考えたとして、それを適用できるのは次の年になる。次の年にコロナが流行していないことを期待してるのですが、この先ずっとこの状況が続けるという事も考えられますよね。今後どうなるか分からないので、内容として先が見えないのではないかと思います。

秋山委員：

コロナ禍での工夫など検討していく会という事であれば、発見発掘古賀の素敵活動というメインテーマとは内容がずれて来るのかと思うので、メインテーマも変えていく必要があるのかと思いました。

実際に社協で地域活動に関わる中で、生涯学習という形で地域活動されている方が私の中では、なかなか浮かばないところではあります。変更案のコロナ禍での活動どうしたらできるというサブテーマについては、福祉会では、一般的な感染対策だけではなく今活動ができないからこそ別な形でできることとして、普段見守り活動は個人宅訪問をしていたが対面ができなくなったため、見守りカードという媒体を作成しメッセージを記載したものをチラシ等と一緒にポストに入れてあります。形を変えても繋がりを保つという活動は行われていたので、提案という形でこういったことがありましたというお話は出来るかなとは思いますが、それが生涯学習という事には繋がらないのですが。

井浦議長：

個人宅訪問・面談ができない中での工夫という事ですね。アンビシャス広場活動などは継続しているのでしょうか？

事務局：

実施しています。その時の状況に応じて、開催したりしなかったり、緊急事態宣言期間中はしてなかったと思います。

國友委員：

そうですね。緊急事態宣言が解除になって福岡子ども広場も再開して、今は夏休みなので庄北・庄南の公民館を使って週3日広場をやっています。東小の場合ですが。

井浦議長：

アンビシャス広場は動いているんですね。その時に何か対策やこれまでと異なるやり方などはありますか？例えば、参加人数を減らしているとか。

國友委員：

広いスペースで実施するという事は考えてあるようです。両公民館ともに、2階の広間はパーティションを外すと広がるのでそういった所を利用したり、道を挟んで向かいに公園があるのでそこも利用して分散して遊んだりしているようです。

井浦議長：

児童センター関係も最大人数を調整して動いているようですので、人数制限というのはあるのかと思います。ただ、それさえも難しいので活動をやっていないところもあるのかなと思うので、そういう所に手法などを提起できれば良いのかなと思います。また、できない理由があると思うので、それを聞きたいなとも思っています。

村山委員：

本筋からそれるかもしれませんが、今の時期だからやめた方が良いという判断をしているのだと思いますが、全てをやめた方が良いという風潮になり、無いなら無いで良いという考えでこのまま無くなりそうな活動は山ほどあると思う。

生涯学習関係だけではなく地域の行事も全部なくなってしまった。無くしたいと思っている人も少なからずいるが、危機感を持っている人もいると思う。まずは全体でこの危機的状況を講演などで共有し、それを基に分かれて話し合っただけではいかがでしょうか？どこの地域でもそうでしょうか、とても厳しい状況だと思います。地域に活動を元に戻すエネルギーがあるのか、とても不安です。

最初にコロナ禍の現状をどなたかにお話をしていただき、具体的な道筋をあたっていくという形式を取ってはどうかと思います。

井浦議長：

ありがとうございます。実施方法に関する内容も入っていたかと思います。そこも一緒に話し合った方がテーマも考えられると思います。

國友委員：

私から、開催内容変更案をお配りしています。当初のアンケートの時と状況が変わりそれに伴って、私の考えも変わったので別に出させていただきます。

不特定多数の集まりにならない様、人数を絞らないといけないと思うので団体の代表の方であるとかどなたが参加されたか確認ができるような集め方をすべきなのかなと考えます。また、先ほどお話に出ていたように吹奏楽の演奏は対象が中学生なので無しにして、オープニングセレモニーとしては開会式だけを行い、内容により多くの時間を割いて中身の濃い内容にするのが良いのではないかと先ほどの話を聞いて思いました。

出演者以降については、私の個人的な案なのでそのように受け止めてください。議長に進行をお願いし、パネラー5名のパネルディスカッションというやり方に変えてはどうだろうかと考えています。

その中で、コロナ禍でどうやったら活動できるかということなどをそれぞれの立場で意見を出していただく。コロナ禍での活動がどうだったのか・どうしているのか、コロナ禍での見直し・進化させたことなどの話も聞けるかなと。また、気づきも生まれたのではないかなと思うのでその内容であったり、終息後の活動に対して閉塞感のなかで新たに芽生えたりした物があるかもしれない。最後には笑顔のつどいの当初テーマである繋がるちからということに関して、コロナを体験した後でどうであったかという事をパネラーの方たちから意見を言っていただく。また、人数を絞った来場者の方からも意見を覗いてそれに対するやり取りも行う。ということをやれば、コロナ禍での笑顔のつどいは特殊な物であったという事にもなる。当初の計画は次年度以降に復活させればよいのかなと思う。

井浦議長：

ありがとうございます。パネルディスカッション方式という提案でした。テーマと併せて内容の検討に入っていますが、テーマに戻ってお話をさせていただいても結構です。

もう一枚、ワールドカフェ方式ということ配布しておりますが、私の方で作成しています。私たちが行おうとしているワールドカフェは実際の方式とは異なりますので、生涯学習笑顔のつどい版ワールドカフェ方式という事で考えてみました。

まずは参加者を特定した方が良いのではないかとこの事で、一つの部屋に同じ分野領域の2つの団体にそれぞれ紹介をしてもらい、意見交流をしていく。発表・質疑意見交換がそれぞれ15分程度、一つの分野領域に対し2つの事例を1時間程度聴くことができるし、意見交流をすることができる。特定した団体が4団体来るのでその関係者が参加すればそれなりの人数での話し合いができるのではないかとこの事で考えてみました。

そのような案が2つありますので、ある程度ターゲットを絞ったら動いていけるのではないかと考えています。

テーマの方はコロナ禍の中でどうするか、生涯学習の在り方両方大切だとは思いますが今回はコロナ禍での活動という内容に変更していくということでもよろしいでしょうか？前段の、発見発掘古賀の素敵活動という部分を少し扱えば調整できると思います。村山委員が言われるように、今まで古賀で行われてきた様々な活動を、終わらせるのではなくどうしたら繋げていけるのか、テーマを少し見直しながら、コロナ禍での活動の充実を図れるような

話し合いになればと思います。

31年度に考えていた内容では無く、2つの案が出てきています。それについてご意見を
いただいでよろしいでしょうか？

秋山委員：

國友委員からの開催変更案、私としては凄く賛成な部分がある。テーマとしてもお題とし
ても今後につながるということ、また、パネルディスカッション形式という所が魅力的に感じ
ました。来場者を参加型にするのと同時にライブ配信すれば、より多くの方にご覧いただけ
るかと思う。この形式であればライブ配信を行うこともできるし、当日以降もアーカイブ配
信という形で期間を設けることでより多くの方に見ていただけるのではないかと思います。
ワールドカフェ方式だとなかなかカメラワークが難しくなりますが、パネルディスカッ
ションであれば定点カメラで対応できると思います。

井浦議長：

ありがとうございます。パネルディスカッション形式でインターネット配信も併せてや
ってはどうかという提起をいただきました。パネルディスカッション案に記載のある名前
はまだ不確定ですね。

國友委員：

これから人選するのは難しいのではないかという、委員の皆様の思いを払しょくする為
に、身近な方で前社会教育委員議長や元副議長など、会の趣旨を理解している方を挙げてい
ます。

角森副議長：

私は狭い範囲で、ワールドカフェしか思いつかなかったが、ライブ配信であるとかその場
に来なくても参加できる。コロナの中だからできる活動という事で、配信を取り入れるのも
良いのかもしれない。

村山委員：

インターネット配信を行う場合、来場者に対して最初に「録画しています」とか「内容を
配信いたします」とか断りを言うてから始めるのですか？

國友委員：

もちろんそうです。

村山委員：

厳しいなど、外に出すものなので、きちんと作り上げないといけないなと思いました。

井浦議長：

インターネット配信の良さと難しさですね。また、それが残っていくという事ですね。

村山委員：

そうです。

井浦議長：

やり方もあるかとは思う。聴講者からの意見やり取りという所を、本人が発言せず思いついたことを紙に書いてもらって、周りの社会教育委員や事務局に渡してもらう。それを何名かで集約し、渡されたものを進行役が読むといった方法であれば、本人が出ることはないので、映ることが嫌な人への配慮は出来ると思います。ただ、書くのは面倒くさくなるのでその辺りはなかなか難しいかもしれない。

参加しやすさと参加して一緒に考えているという会にするためには、どうなのか。パネルディスカッション形式、ワールドカフェの名前を借りた形式、または、ほかの形式があればご意見をお願いします。

パネルディスカッションでは、古賀市の今までやってきた活動が、去年今年とこういった状況です。という投げかけを前段で何分間か誰かが行う。それを受けて 5 名程度の方に登壇いただき、それぞれの現状を話していただきながら意見交換する。

國友委員：

司会進行とは別に専門的な方を一人ご招待出来ると、なおいいと思います。

井浦議長：

運営やり方について、いかがでしょうか？ パネルディスカッションのデメリットとして事務局案では意見が出なかった場合が挙げてあります。

角森副議長：

たまたま私が行ったところがそうただだけかもしれないが、確かに、報告だけで終わりなかなか盛り上がらないことが多い。

村山委員：

それはあると思う。私もあまり意見は出したくない。やはりそういった方が多いのではないかと思う。

國友委員：

本来笑顔のつどいは、広く遍くいろいろな活動を知ってもらいたい、自分たちでも実践して欲しいというところでの集まりだったけれど、今回は自分たちの意見・考えを持っている方に人選を絞れば良いのかなと。

井浦議長：

どちらのやり方をするにしても、メリットデメリットがある。よりメリットを感じさせるものは何なのか。パネラーをもっと減らして、協議の時間を増やすこともできる。その代わり、しっかりとフロアとのやり取りの流れを作っていかななくてはいけない。

國友委員：

あくまでも私の案なので、内容はどんどん変えていいと思います。

早川委員：

花見小学校のピオトープに参加している子どもや地域の方の姿や、本校でも体育祭に近いものを行った時に、本来、人というものは、集まって同じ目標に向かって活動することが必要だとこれらの活動を見て思った。皆さん充実した表情をしていて、体育祭もどきではあったのですが終盤には狂喜乱舞している姿を見ると、これだけ制限がかかる中ですが、人は関わる生き物なんだと感じました。それぞれの社会教育関係団体の活動もストップしていらっしゃるとお聴きしたが、少しでも関わった良さを発表する場であったり、やっぱり人は集まった方がいいね、力を合わせた方がいいねという発信ができるような時間であったりすれば良いなと思います。具体的な内容が思いつかず申し訳ありません。

國友委員：

花見小学校は30周年事業で実施されたようです。

角森副議長：

案に5団体挙げてくださっているのですが、3団体をパネラー、残りの2団体をフロアに分けてはいかがでしょうか？壇上のパネラーと、聴講者と一緒のところでのパネラーという様な感じで。

國友委員：

参加者の人選が難しい。きちんとした意見を遠慮せずに言えそうな人。

村山委員：

私の少ない経験からですが、ただ話しているだけではすごく長くなる。原稿をきっちり書くようにしないと、時間内には終わらないのではないかと思います。

聴講者からの意見は原稿を書くことができないので、話すのが好きな人は長くなる可能性がある。それはそれで良いのですが。

角森副議長：

テーマで廻したかったら、案にお題を挙げていただいているのでその内容で話していただくことは出来る。

秋山委員：

極端な例を挙げると、パネルディスカッションではなくシンポジウム形式で今挙げていただいている5団体の方に、それぞれの活動や想いを話していただき、5人の中で課題について話してもらおう。聴講者の意見はこの場では出してもらわずに、地域活動者の意見は区長選出の登壇者が代弁しているというらえ方で進行する。極端な例ですが、提案してみました。

井浦議長：

シンポジウム形式ですね。角森副議長が言われていた、フロアのパネリストも有りかと思う。例えば、同種の団体に声をかけてやるとなった時に、文庫の方がしゃべりフロアの文庫の方にご意見はないかと振るという形でやるという事でやれば、お互い同じ領域での意見が出て来る。アンビシャスの方、通学合宿の方ご意見はありませんか？と絞り込んで聞くことも出来ると思う。例えば、たくさん区があるので区長の考え方もそれぞれだと思う。

村山委員：

区長にも校長にもたくさん来ていただいて、代表の方にも来ていただければ、多方面からの参加ではないかもしれないが、まとまり良く集まるのかなという気はする。

井浦議長：

今出た話の中では、パネルディスカッションかシンポジウムかという集合形式でのご意見が多いようですので、運営の中身に関してはこのような形で良いでしょうか？当初の分科会形式ではなく、一括で。ただし、類似の団体になるべく集まってもらえるような選考と配備をしていくという形で進められればと思います。

角森副議長：

そうなったときには、配信するときあまり影響はないのでしょうか？私は配信を一緒に入れたらよいのかなと思う。

井浦議長：

最初にきちんと声掛けをしていたら、どうでしょうか？それでもやはり、発言者は構えられますよね。

村山委員：

編集したものを流すのはいけないのでしょうか？原稿を書いている物だけを配信するとか。

秋山委員：

出来るのはできるが、作業としてはとても大変だと思います。

事務局：

メリットデメリットにも記載してるのですが、生配信となると通信環境の関係で止まったりしまったりするので、録画したものをチェックして流すことでリスクは下がるのかとは思いますが。

村山委員：

時間が結構長いので、それをそのまま流すのかよいのか。パネラーの方のお話と最後のまとめなどだけ流すとか。そのような方法でも良いのかなと思います。

國友委員：

録画であれば、その辺の判断は終わってからでも可能になる。

井浦議長：

インターネット配信の事は別にしながら、形式としてはこういった形で進めていければと思っています。今回決まったのは、日程は1月23日(日)、テーマに関してはコロナ禍を踏まえた内容に変えていく、パネルディスカッション・シンポジウムの形式で行うという事です。8月までに最終的に内容を掴んでいけば、11月の広報までに見直しもきくと思います。あと、決めておきたいのは、開会行事としてどうするのか。子どもたちや活動団体の出番を作るのか。その辺りをご検討いただければと思います。笑顔の映像は何分くらいですか？

事務局：

2分程度だと思います。

井浦議長：

最初に話題に出ていたワクチン接種ですが、世代が関係してくる。

國友委員：

オープニングの映像で過去6回の写真を流すとか、これまではこんな感じで開催していたという事がわかるかもしれない。

井浦議長：

アトラクションに関しては、今回見送っていいのかなと思う。延期もしましたし、時期的にはインフルエンザの心配もある。来られる方は、ある程度所属の団体がわかった方に来ていただく。子どもたちが出演すると、やはり保護者の方も観に来られると思うので、人が増える心配もある。いかがでしょうか？写真映像は確実に入れるが、アトラクションは見送るという形でもよろしいですか？

委員一同：

はい。

井浦議長：

本日の協議事項は固まってきましたので、次回までをお願いしたいのは、パネルディスカッション的な形式という事で固まってきているので、國友委員から出していただいている5人のパネラー候補と、お題に対してのご意見をお聞かせいただきたいと思います。事務局から、アンケートという形で出していただきたいと思いますがよろしいでしょうか。その回答を基に最終的な中身を詰めて行けたらと思っております。

では、その他の項目に移ります。委員の皆さんからなにかありましたらお願いします。

國友委員：

先ほどお話に出た花見小学校の30周年記念行事は、花見小のホームページで観れますので、ぜひご覧ください。

井浦議長：

ありがとうございます。他になければ、事務局からお願いします。

事務局：

はい。(福岡ブロック社会教育委員研修会について)

井浦議長：

発表は私が行きます。あと1名参加できますので、ご希望の方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡をお願いします。

では次回の会第日程をお願いします。8月24日(火)の週で決めたいと思います。26日(木)は皆さん都合が良いようですのでその日に決めたいと思います。

それでは、終わりの言葉を角森副議長お願いします。

角森副議長：

今、保健師の行政実習に行っていますが、実習で学生に学ばせたい事として、想像力する力という事を入れている。ワクチン予防接種の様子を見せていただくのですが、それまでの間の労力や経費については想像が出来ていない。人の背景を考える、想像する力が付くと思っ

てやっているがなかなか難しいです。
学生は泊まりの実習ですが、私は毎日車で通っています。車内の温度もかなり暑いので、皆さんも熱中症など十分にお気を付けください。どうもお疲れさまでした。